

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	看護学
学籍番号	16S3027	院生氏名	佐藤 美樹
通学キャンパス	東京赤坂キャンパス		
論文題目	幼児を持つ親の家族エンパワメント尺度の開発		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 研究の概要</p> <p>(1) 研究背景：幼児を持つ親の支援には、家族全体に焦点をあてたエンパワメントの視点が必要だが、既存の尺度ではエンパワメントにおける家族の相互作用の評価項目が不足している。</p> <p>(2) 目的：育児中の親の家族エンパワメントを測定する尺度を開発し、妥当性・信頼性を検討する。</p> <p>(3) 方法：以下の段階を経て、尺度の構成概念の妥当性を検証する。</p> <p>①第1段階：子育て期の家族のエンパワメント尺度原案の作成</p> <p>②第2段階：幼児を持つ親の家族エンパワメント尺度 (FES-P) の妥当性・信頼性の検討</p> <p>(4) 結果</p> <p>①第1段階：文献検討により、暫定版子育て期家族エンパワメント尺度を作成した後、地域・家族看護学教員 5 名および保健師 6 名で検討の結果「修正版尺度」を作成した。</p> <p>②第2段階：調査 1 FES-P の開発</p> <p>修正版尺度を用いたインターネット調査協力者は、男性 412 名、女性 413 名でこれら 825 名を分析対象とした。因子分析の結果、最終的に 5 因子 26 項目による FES-P が構築された。FES-P のモデル適合度は十分で、パス解析の結果パス係数は統計学的に有意であった。</p> <p>③第2段階：調査 2 再テストを行い、FES-P の安定性と再現性を確保した。</p> <p>(5) 結論</p> <p>本研究を通じて、一定の妥当性・信頼性のある 5 因子 26 項目からなる FES-P が開発された。</p> <p>2. 研究の倫理的側面</p> <p>本研究は国際医療福祉大学研究倫理委員会の承認 (承認番号：18-Ig-65) を得て実施された。</p> <p>3. 知見の新規性と価値</p> <p>本研究は、幼児を持つ親のエンパワメントに着目し、「FES-P」を開発したものであり、新規性・独創性を認める。また、尺度の妥当性・信頼性については、検証を積み重ねており、今後乳幼児健診等実践の場での活用等地域貢献度の高い研究成果を得たものであると評価する。</p> <p>4. 審査</p> <p>審査会を平成 30 年 11 月 29 日に実施した。口頭試験を行い、各審査員の質問に対して、誠実かつ適切に応答した。初回審査では、尺度開発に至った背景や尺度の今後の活用、研究対象特に第 1 段階の対象の妥当性、また副論文と本論文の関連に関して明確に記載されていないことについて論文の修正を求めたところ、12 月 21 日の期日までに適切に修正された。</p> <p>5. 審査結果</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (保健医療学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	野呂 千鶴子	
	副 査	杉原 素子	
	副 査	臺 有桂	